

主 題：女性に祝福をもたらすもの
聖書箇所：随所

世界の創造の初めから、確かに、それよりも以前から、神はあらかじめ人間を男性と女性に造られました。そのことを計画しておられました。そのことを定めておられました。男性と女性に創造することを通して、神は神の栄光を現わすという唯一のその目的を達成することを良しとしていたのです。男性と女性に造ることによって神は、この人間に違う役割を備えられました。その役割を備えることを通して神の栄光が確かに現わされるために、神はそのことを成されたのです。皆さんがよくご存じの創世記の記事を見て行くと、すでにお分かりのように、神はまず最初にアダムを造られました。最初に造れたときにアダムには相応しい相手がいませんでした。そして、神はその相応しい相手が造られるまで、この創造の六日目を「良い」とは言わなかったのです。それゆえに、アダムに相応しい相手が創造されるまで神の被造物全体を見て、これは「良い」とは言わなかったのです。アダムが一人であることは良くなかったのです。それゆえに神はエバを創造されました。エバはアダムにとって最高の賜物でした。女性は男性にとって最高の賜物だったのです。そして、男性は女性にとって最も相応しい存在だったのです。

けれども、皆さんがよくご存じのように創世記3章の出来事が起こりました。罪がこの世に入り、この完全、完璧で全く問題のなかった男性と女性の関係に大きな問題が起こりました。いや、むしろ完全な崩壊が起こりました。そして、私たちは今日も、毎日の生活の中でこの罪によってもたらされた男女関係の崩壊の影響を受け続けているのです。それを体験にしているのです。いったい、どのようにして私たちはその崩れ去ってしまった問題を解決することができるのでしょうか？いったい、どのようにして私たちはアダムとエバがもたらした、本来なら最高最良の相手だった男性と女性、夫と妻の関係をもう一度元の状態に戻すことができるのでしょうか？

今朝、母の日です。母の日にはいつも女性に向けてメッセージをします。毎回思うことは、母の日に女性について聖書からみことばを聞き、父の日には男性についてみことばを聞くと、どうも祝福を受ける日なのに、何か傷付けられて責められてどうしよう？と反省しなければいけない部分が多くなってしまふかなと思って、今日は女性の皆さんに私からの贈り物です。今日、皆さんには男性が本来どんな人物であるべきなのかということをお話したいと思います。「女性に祝福をもたらすもの」というタイトルを付けました。その「もの」というのを、ひょっとすると漢字に書き換えるべきかも知れません。もし、男性が女性に祝福をもたらす者であるとするならば、男性はこういう人物でなければいけないということを、今日皆さんと一っしょに見て行きます。それは今日ここに来ている女性の皆さんが「あなたがこういう人だったら私は幸せになれたのに…」と言って、この後、男性の皆さんを責めるためではなく、女性の皆さんが心から祈りつつ、皆さんが共に過ごされる、また、皆さんの周りにいるクリスチャンである男性たちがこのような人物になって行くことを心から願い、また、救われていないご主人たちが神が求めておられる最高の人物へと行って行くことを心から願いつつ、彼らの救いのためにより熱心に祈っていただくためです。男性の皆さんには、このメッセージを真剣に聞かなければいけない理由があります。なぜなら、神は皆さんがこのような人物にならなければいけないと言われているからです。でも、男性の皆さん、安心してください。来月、皆さんには祝福があります。

今朝、皆さんと一っしょに、夫が「どのようにすれば妻の祝福の源になることができるのか」ということを見て行きます。これが何よりも女性の皆さんにすばらしいギフトとなることを願い、また、ここにいる皆さん一人ひとりが、その喜びを分かち者になることができればと思います。私たち男性は、願わくは、私たちの愛する女性たちの祝福になりたいと心から思っているはずです。その様な男性になって行くために、私たちはどうすればアダムがもたらしたこと、アダムとエバが犯したその罪によって入って来たこの男性と女性の関係を修復することができるのかという質問に答えていかなければいけません。いったいどうすれば、神が「良い」と言われた元のすばらしい関係に戻って行くことができるのでしょうか。聖書は確かに、この質問に対してたくさんの回答を与えています。間違いありません。けれども、その中でも特に一つ、これをしっかりとしなければならぬと私が思うものがあります。今日、皆さんとそのことを一っしょに考えて行きたいと思います。それは神が男性に与えた最も重要な役割に関することです。そのことは二つの角度から考えなければいけません。

☆神が男性に与えた最も重要な役割について**1. その役割をはっきり理解すること**

2. その役割をしっかりと行なっていくこと

この二つを見て行きます。

今朝、私が心から祈り願うことは、ここにおられる一人ひとりの皆さんが、例え、あなたが妻であっても独身であっても、夫であっても女性であっても、すべての皆さんに今日ここで話すことが励ましになることです。妻である皆さんたちがこのことをはっきりと理解し勇気づけられて、もっと熱心に夫のために祈るようになり、夫の皆さんが心からこのような男性になって行こうと願い、未婚の女性たちがこのような男性を心から捜し求め、未婚の男性たちはこのような男性へと行って行くための努力をし、もうすでに最愛の夫や妻を天に送った者たちが、自分たちの体験を元に若い世代の男性女性たちを、このような男性になって行くように励まし、祈り支えながら生きて行ったださるように、そのことを願いつつ、この夫の役割について見て行きたいと思います。

1. 男性は神が与えてくださった最も重要な役割を理解する

1) リーダーであること

その役割とは、私たち男性がリーダーであるということです。もし、ここで皆さんにいったいどのようなことが男性にとって最も重要な役割ですか？家庭において夫の最も重要な役割とは何ですか？と聞いたなら、いろいろな回答があることでしょう。多くの人たちは、ひょっとするとこの社会において男性、夫とは単にお金を稼いで来る者と考えられるかも知れません。そこにはいろいろな理由があることでしょう。特に、現代の社会問題となっていることは、リタイアをした男性たちが家庭において非常に邪陰に扱われるということです。居られると困ると言うのです。ひょっとすると、それはそれまでの結婚生活の中で男性が果たして来た役割が、外に出て仕事をしてお金を稼いで家に持って来るだけだったかも知れません。非常に興味深いことに、この10年の間で、結婚生活が25年以上あるカップルの離婚率は2倍になったそうです。それが30年以上続く人たちの場合は3倍になっているそうです。

確かに、男性が家庭の中において与えられている役割の一つには、その家族の生活を養って行くということがあります。確かに、その通りです。でも、それが本当に最も重要なものなのかと言うと、私はそうではないと思います。確かに、他にもたくさんのいろいろな役割を上げることができるかも知れませんが、男性にとって最も為さなければならぬ女性にとって家族にとって必要な役割は、男性が家庭の中でリーダーであるということです。

エペソ人への手紙5章23節にパウロははっきりとこのことを私たちに伝えていています。妻に対する教えの中でこのように記しています。「なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。」、なぜ、妻が夫に従わなければならないのか、パウロがはっきり言うその理由は、男性、夫は女性のかしら、リーダーだから、教会のかしらキリストであるように家庭のかしらは夫だからです。また、パウロは1コリント11:3でこのように言っています。「しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。」と。女性のかしらは男性なのです。これはキリストが神に対して従順に仕えられたそのことによって神の栄光が確かに現わされたことに関連します。なぜなら、キリストは従うことによって神がいかに偉大な方であるのかを明らかに示されたからです。同じように、男性もキリストに従うことによって神の栄光がそこに確かに現わされるのです。パウロがエペソ5:23で言ったように、女性が男性に仕えるときに、男性が女性のかしらとなっているときに、神の栄光はそこに現わされるのです。

このように話をすると、ある人たちは「それはおかしいではないですか。男性と女性は同等です。そこに上も下もありません。」とそのような意見を言う方たちがいることは事実です。彼らはこのように言います。「神の前にあっては男性も女性も同等に扱われるべきです。」と、これに対して私は「その通りです。」とも「それは全く違います。」とも言います。「イエス」であり「ノー」なのです。なぜなら、確かに、男性と女性神の前にあって同等に造られた存在です。確かに、両方とも神の似姿に造られました。全くそこに差はありません。男性も女性も神の前に同等の責任を持っています。特に、神を知ることと神の栄光を現わすことにおいて。神は「君は男性だからわたしはよりあなたに好意を与えましょう。」とは言いません。神は女性に対して「あなたは女性だからわたしは少し蔑みます。」とは言わないのです。男性も女性も神の前にあって同等の存在、その通りです。その創造において、その目的において。

けれども、男性と女性には役割の違いが確かにあります。役割には違いがあるのです。みことばを見たときにそのことははっきりと表わされています。聖書全体を通して、男性と女性には役割の違いがあるということを神は言われています。もう一度、創造の記事を思い出してください。神は確かにアダムを最初に造りました。そして、アダムに対して様々な責任を申し付けました。まだ、エバが造られていないときです。そして、その後で神はエバをこのアダムを助ける「助け手」として造られたのです。これ

は創造の初めから人間の歴史を通してずっとその様に続いていることなのです。

それゆえに、パウロはテモテへの手紙の中で、女性に関して、特に、教会の中でのことですが、このような教えをしています。Ⅰテモテ2：11-13「女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。：12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。：13 アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。」、なぜ、教会において女性が静かにし従順でなければならないのか、その理由は？と聞いたときに、パウロはそれは「アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。」と言うのです。役割に違いがあるのです。それは今も継続していることです。確かに、多くの人たちにとってこの教えはそんなに簡単に受け入れられることができないものかも知れません。今の時代、女性のほうが強くなっており、女性の同等性を訴える人たちが非常に多くいます。けれども、聖書がはっきり教えることは、男性と女性はその存在において神の前には同等であるけれども、その役割においては確かに違う役割があるということです。男性は女性の上に権威をもっています。それゆえに、家庭においてリーダーとしての働きをしなければいけません。そして、それこそが男性が持っている家庭における最も重要な役割なのです。特に、妻と家族に対する関係においてその通りです。もし、このことを理解しないなら、理解することができないなら、皆さんの家庭を通して神の栄光を現わすという希望はどんどん薄れて行きます。

思い出してください。神は何のために被造物を造りましたか？神の栄光のために造られました。神が造って「良い状態」と言われたのは、アダムが最初に造られてアダムが導くという責任を全うし、エバがそのアダムを助けるという役割を果たしているときです。その状態によって、罪のない世界において神の栄光が完全に現わされたのです。もし、皆さんの家庭の中で男性が導き手としてリーダーとしての働きをしていなければ、その家庭が罪のなかったエデンの園の状態に戻ることができると思いますか？できません。男性の役割が何なのかを理解しなければいけないのです。もちろん、「導く」ということ以外にも男性の役割はあります。でも、このことはその中でも非常に重要なことなのです。墮落してから長い年月が経ちました。その間に、男性たちは神が与えてくださったこのすばらしい「導く」というリーダーとしての権威を自分勝手に用いて来ました。そして、女性たちの生活を非常に惨めでむごいものに変えてしまいました。そのようにして来たのです。本来なら、祝福の源としてこのような生き方をして行かなければいけないのに、むしろ、女性に対する呪いの源になっていたのです。それゆえに、私たちはこの「導き手」として「リーダーとしての役割」がどのような意味をもっていて、それは何をすることなのか、また、いったいどういう意味ではないのか、何をすることではないのかということを考えなければいけません。そのことを簡単に見て行きたいと思います。

2) 聖書が意味していないリーダーとしての役割

最初に、否定的な面から、つまり、神が与えてくださっている男性がもっているリーダーとしての役割が意味しないことを見ましょう。

(1) 独裁者になること

聖書的リーダーシップは「独裁者」になることではないことです。なぜなら、私たち自身に何か権威がありますか？男性がもっている権威とはどのような権威ですか？それは、唯一、神がその権威を私たちに与えてくださったということに基づいている権威でしかありません。家庭の中であって絶対的な権威は夫にはありません。それは神にしかないのです。それゆえに、男性の権威は独裁者としてあらゆる権威をもっているような存在として振る舞うべきものではないのです。それゆえに、聖書的なリーダーは独裁者ではないのです。神のみことばによってその権威が初めて認められ、神のみことばを通して、その権威を私たちは発揮することが出来るのです。

ある男性たちは、あらゆることに関して自分の願うままを行なうことができることが男性の権威だと思っています。そのように生きて来た人たちが歴史を通してたくさんいます。今の社会にもそのように独裁者として家庭を支配する男性がたくさんいます。けれども、聖書的リーダーはそのような権威を持っていないことを自分たちでよく分かっているのです。もし、自分の願うままにあらゆることが起こらなければならないという、独裁者的なリーダーシップを家庭の中に持つことが自分の役割だと思っているとするなら、皆さんは他の何者でもない自分自身を小さな神として、家の中で祀り立てている存在でしかありません。皆さんは偉大なる主なる神に向かって家族に「神を称えなさい。」と言うのではなく、自分自身を祭壇の上に祀りたてて「私にひざまづきなさい。」と言っているのです。どのような男性が聖書的なリーダーですか？皆さんはその答えをよくご存じです。

(2) あらゆる選択を自分がしなければならないと思う

単に、家族全員のあらゆる事細かな様々な決断を「自分がリーダーだから」と言って、選択しなければならないとするなら、時間がないことは明らかです。細かな一つ一つのことまで決めることができない

いのは明らかです。「今日の晩ご飯のおかずは何にしましょう？」と毎日電話が掛かってきたら皆さんはどうしますか？ひょっとしたらされる方がいらっしゃるかも知れませんが、あらゆる小さな事細かな選択に至るまで、「私はリーダーだから」と言って選択をすることなどできないことははっきりしているのですが、それだけではありません。聖書はこのリーダーがどのような存在なのかを教えています。非常に興味深いことをテモテへの手紙では教会のリーダーたちの条件に入れています。Ⅰテモテ3：4-5の長老の条件の中でこのように言います。「自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。：5——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができでしょう。」、そして、12節では執事に関してこのように言います。「執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。」と、どちらも「家庭を治めること」とあります。この箇所が私たちに教えることは、すべての夫は家庭を治めるのですが、教会のリーダーとして立つ人物は家庭を「よく治める」のです。ここで注目していただきたいのは「治める」ということばです。これは「マネージする」と訳すことができます。

皆さん、マネージャーの役割を知っていますか？家庭において治めるリーダーである男性は、その家庭における様々な必要が何なのかをよく知って、そして、そこに一人ひとりが聖書に基づいてその責任をしっかりと全うして行くことができる様に、一人ひとりにその責任を分担し様々な責任を委託し、家庭における様々な事柄が正しく全うされる様に導く者、治めている人です。聖書にはどこにも「夫はありとあらゆる選択をしなければいけません。」と書いていません。聖書は「夫はよく治めていなければいけません。」と書いています。

だから、知らないことがたくさんあっては困るのです。それではマネージできないからです。でも、残念ながら、この日本において男性たちは多くの場合、家庭において何が起きているのか全く理解していません。子どもたちが学校でどんな問題を抱えているのか全く無知であったりします。家庭にどんな必要があるのか全く関心を払わないでいます。「私の責任は外にある。」と言います。しかし、聖書的なリーダーは家庭をよく治めるのです。家庭にある問題がどんなことなのか、そこにある様々な必要がどこにあるのか、それをしっかりと理解して、しっかりと知って、それをどのように解決して行くのかについて知恵を持って答える人です。それが聖書的なリーダーです。家庭における夫の役割です。

（3）他の家族の一員にそのリーダーシップを委託して、自分のリーダーシップを発揮しない

別の言い方をすると、聖書的なリーダーは常にリーダーシップを発揮している人物でなければいけないということです。家族を導くことに関して、さぼったり怠けてなどいないのです。神は男性に「導く」責任、役割をお与えになりました。ですから、もし、皆さんが「私は男性です」と言うなら、皆さんは導かなければいけないのです。「すみません。今日、私は男性を止めます。」と言って女性になることができるのなら、どうぞその日は導くことは止めてください。でも、皆さん、それが出来ないことはよく分かっています。男性として神が皆さんをこの地上に生かしてくださっている限り、皆さんに与えられている為さければならない責任は「導く」という責任なのです。その役割が与えられているのです。これはしてもしなくても良いことではありません。神の深い知恵に基づいて、神は男性が導くことが相応しい良いことだとされているのです。なぜなら、男性がリーダーシップを発揮することによって、神の栄光が家庭を通して豊かに現わされるからです。

創世記3章にアダムとエバが堕落したことが記されています。皆さんよくご存じです。蛇が誘惑して、取って食べてはならないという木からエバが実を取って食べました。その記事の中にアダムのリーダーシップを見ることができますか？その箇所では幾つかの部分で蛇がエバを誘惑しエバが実を取って食べたというあの場に、アダムもいっしょにいたと見受けることができます。なぜ、アダムは黙っていたのですか？確かに、エバが取って食べました。アダムはなぜ何も言わなかったのでしょうか？なぜ、エバに「あなたはどのようにそんなことをしたのですか」と言って悔い改めを求めなかったのでしょうか？むしろ、エバの手にある実を見てそれを受け取って食べたのです。皆さん、リーダーシップがどこにあるでしょう？もし、男性が神の前に与えられているリーダーとしての役割を果たすことがないとするならば、神の栄光が家庭の中に現わされることはありません。なぜなら、神は人を男性と女性に、家族をそのように造られたからです。

聖書的なリーダーはどのような者でないかというリストはまだまだ続きます。一つ一つにもっと細かい説明をしたいのですが、次に行かなければ行けません。

3）聖書的なリーダーとは？

このすばらしい模範を私たちはイエス・キリストに見ることができます。いったい、キリストはどのように導いたのでしょうか？先ほどエペソ5：23で見たように、男性と女性、夫と妻の関係は、キリストと教会の関係に例えられていました。置き換えられていました。キリストは教会をどのように導かれ

たのでしょうか？私たちはそのことを通して、男性が女性をどのように導くべきなのかを見ることが出来ます。全部ではありませんが、重要だと思う幾つかのものを上げてみたいと思います。

a) キリストは心優しいリーダー

ヨハネの福音書 10：27 でイエスはこうに言われています。「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」、ここでキリストのリーダーシップは心優しい羊飼いに例えられています。この心優しい羊飼いは羊の置かれている状況をよく理解している人物です。そして、その羊たちに相応しい導き方をするゆえに、羊たちは喜んで付いて行くのです。西部劇に出て来るカウボーイのように、鞭をもって羊とその群れを追いやって行くような羊飼いではなく、イエス・キリストは私たちの必要をしっかりと理解して、それに沿った優しい導きを私たちに与えてくれるのです。

b) 謙遜なリーダー

ピリピ人への手紙 2：6－8 は皆さんはよくご存じの箇所です。イエス・キリストがいかにかへりくだられたのか、パウロはキリストのかへりくだりについてこのように言っています。「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは思えないで、：7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。：8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」、ここで私たちは、キリストが私たちの上に完全に権威をもっておられる神であるのにも関わらず、ご自分を仕える者とし、その死に至るまで従順に仕える姿を見ることができるのです。もし、キリストが私たちのために自分の権威を横に置いて、特権を横に置いて、自分が持つべき本来の正当な事柄を横に置いて「あなたのために仕えます」と来てくださったなら、夫はそのキリストに倣ってへりくだって自分の特権を横に置いて、妻や家族の必要を満たすために仕えるべきだと思いませんか？

c) 仕えるリーダー

イエスは弟子たちにこのように言われました。ルカの福音書 22：25－26 「すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々の上に権威を持つ者は守護者と呼ばれています。：26 だが、あなたがたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようにになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。」、キリストは私たちのために「…仕えられるためではなく、かえって仕えるため…」（マルコ 10：45）に来てくださいました。夫もそれと同じように、自分の妻や家族のために仕えることを考えなければいけません。

現代の日本ではあまり見られなくなったかも知れませんが、日本人は時に、夫、男性はいつも家に帰って来ると、居間にでんと座ってそこから一步も動かずに、仕えられることが良いことだとしていました。私たち日本人はひょっとするとそれが男性像だと思っていたかもしれません。でも、聖書が何を言うのかをよく考えなければいけません。疲れて家に帰って来たときに、男性が願うことは「疲れて家に帰って来たけれど、わたしはこれから家庭において治める者としての役割、リーダーとしての役割を果たさなければいけないから、どのように家にいる家族に仕えることができるのか考えよう。」ということです。私たちは家庭において小さな神ではないのです。王ではないのです。私たちはキリストの模範に倣うリーダーでなければいけないのです。優しくへりくだった仕えるリーダーです。

d) 一つの焦点、一つの目的をしっかりと持ったリーダー

イエスがもっていた焦点は非常にはっきりしていました。それは「神のみこころを行なうこと」でした。イエスはヨハネ 6：38 でこのように言われました。「わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行なうためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行なうためです。」、これがイエスがこの地上に來られてリーダーとして教会を愛し導かれたときに持っておられた唯一の焦点、目的だったのです。同時に、夫である私たちも神に喜ばれる家庭を築いて行こうとするなら、神の目的に沿ったリーダーシップを発揮して行こうとするなら、私たちが持たなければいけない唯一の焦点、唯一の目的は神のみこころを自分の家庭の中で確かに全うして行くことです。もし、この一点が確かに成されているのなら、それ以外のことはどうでもいいのです。逆に言えば、あらゆることが円滑に行っていたとしても、もし、この一点を全うすることがなければ、その家庭は神に喜ばれる家庭ではないのです。

リーダーとしてのあらゆる働きは、神のみこころを成し遂げ、神の栄光を現わすという所に向けられていなければいけません。もし、導くこと、自分のもっている権威を行なって行く、それを実践して行くことが神の栄光を現わし、神のみこころを実践して行くところに向けられていないとするなら、男性は例えどんなリーダーであったとしても、聖書的なリーダーシップを発揮していないのです。

男性の皆さん、皆さんははっきりと自分に与えられている役割が何なのかを理解していなければいけないのです。皆さんに与えられている役割は、神が喜ぶリーダーとして生きることです。そのリーダと

しての責任を家庭において全うすることです。もし、皆さんがそのことをしていないとするなら、皆さんは悔い改めて、それをするようにしなければいけません。皆さんがそれを実践して行くときに家庭は変わります。皆さんがそのことを理解したとき、そこには豊かな家庭、神に喜ばれる家庭が生まれて来るのです。最初に、エデンの園で神の栄光が豊かに現わされていたように、皆さんの家庭がその様に栄光を現わすものになるのです。

女性の皆さん、男性たちがそのようなリーダーシップを家庭の中で発揮してくれたなら、私は喜んで夫に従って行くことが出来ると思いませんか？いつも威張り散らしている独裁者のようではなくて、いつもごきげんを取らないといけないからビクビクしながら夫に仕えるのではなくて、安心して信頼して夫が助けてくれること、仕えてくれることを知っているから、導いてくれるから、喜んで自分の弱さを告白して夫を信頼して生きて行きたいと思いませんか？

本来、男性は女性の祝福なのです。どうです、皆さん、祝福ですか？確かに、正しく理解することは重要です。残念ながら、理解するだけでは十分ではありません。役割が何なのか良く知っているからと言って、私たちがもしその役割を確かに実践しないなら、私たちは決して女性の祝福になることはできません。行ないのない知識は無益なものです。私たちが見たように、真の聖書的リーダーシップとは神のみこころを行なうことにあります。頭に中でいろいろな推論を立てて、こうしよう、あのようにしたらいいいと思っているだけでは十分ではないのです。実際に行わなければいけないのです。では、いったい、家庭においてどうすれば、何をすることが私たちが神のみこころを行なうことになるのでしょうか？そのことを話さなければこのメッセージを終えることはできません。頭ばかり大きな夫を造っても皆さんの祝福にはなりません。では、クリスチャンの夫として家族を導くときにどこから始めるのでしょうか？何をしなければいけないのでしょうか？これも大きな質問です。そこにはたくさんの回答があります。残る時間でそれらを見ることはできませんが、二つだけ見たいと思います。

2. その役割をしっかりと行なって行くこと

神は人間に対して多くの「これがわたしのみこころです」ということを教えてください。たくさん命令がありますが、感謝なことに、イエスはそれを凝縮して二つのことにまとめてくださっています。イエスは「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」という質問に対して、次のように回答されました。マタイの福音書 22 : 37-39 「:37 そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 :38 これがたいせつな第一の戒めです。 :39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」と。男性がしなければいけないこと、導いて行くために必要な実践の部分はきりがありませんが、要約するならこの二つに納まると言うのです。「神を愛すること」と「隣人を愛すること」です。この二つのことを男性が家庭においてどのようにして為して行くのかを考えましょう。

1) 主を愛するようと自分の家族を導く

男性がリーダーとしての役割を実践する時に、男性は自分の家族を主を愛するように導かなければいけません。何度も繰り返しますが、あらゆるものは神によって神のために造られました。そして、神によって造られた私たちは、神の栄光を現わすように造られました。それは神との正しい関係を持つことでした。私たちの存在には私たち独特の目的があったのです。それは神を愛することです。そして、私たちは神によって神を愛するように造られているゆえに、私たちが神を愛するようにならない限り私たちが生きる目的を果たすことはないのです。

私たちが存在する目的は神を愛し神の栄光を称えることであるゆえに、私たちが神を愛さないで神の栄光を称えないなら、私たちは生きている目的を果たしていないのです。イエスは神を自分自身のすべてをもって神を愛することが、何よりも大切な最も重要な人生の目的であること、優先すべきこと、最高の事柄であると教えました。そして、このことは神から与えられた最も重要な命令であるゆえに、私たちはそのことを家族が為して行けるように導いて行かなければいけないのです。

世の中には多くのすばらしい男性たちがいます。彼らは家族のために最善を心から求めています。多くの良い夫たち良い父親たちは、確かに、家族を幸せにし家族に満足をもたらすために、他の人たちよりもさらに多くの事柄を為して何とかして彼らに幸せをもたらそうと考えます。世のすべての人たちがダメな夫、父親であるわけではありません。むしろ、すばらしい男性たちがたくさんいるのですが、例え、もし、この世のすべてを家族に与えたとしても、家族が神を愛するようにならなければ、家族に対して家族が神を愛することを導いて行かなければ、その男性は家族に対して最も大切な必要を満たすことに欠けているのです。例え、全世界を手に入れても己のいのちを失ったらいったい何の益、何の得があるでしょう？「心を尽くし、思いを尽くし、自分自身のすべてをもって神を愛したいのです。」と言うその場所へと家族を導くことがなければ、私たちはいったい家族に何を残すことが出来るのでしょ

う？別の言い方をすれば、もし、皆さんが神を愛するように家族を導かないなら、皆さんは家族を究極的には不幸にします。なぜなら、家族は神を愛さないからです。神を愛さない者たちは永遠の滅びを経験するからです。

皆さんはこのように言われるかも知れません。「私はあまり十分に、いや、全くそのような導き方をして来なかったけれども、私の妻も子どもたちも救われているからいいではないですか。」と。でも、皆さんが自分自身の責任を果たしていなかったら、神の前で何と言いつけますか？単に、神が恵み深くあわれみ深い方であって、皆さんの家族に対して特別な祝福を与えてくださっていることに感謝すべきかも知れませんが、でも、自分自身が神の前に罪を犯している生活をそれで弁明することができますか？私たちが家族を主を愛するように導くことは非常に大切なことです。これは子どもたちを教会学校に送ることではありません。これは妻たちが様々な集会に参加しても良いと許可をすることでもありません。また、「家族でデボーションの時間を持ちましょう。」と言って毎朝6時から7時までの1時間、家族が集まってデボーションの時間を持つことでもありません。確かに、それらはその一部かも知れませんが、それをしているから「私は家族を神を愛するようにと導いています。」と言うなら、大きな間違いです。家族を本当に神の前に主を愛する者として導いて行こうとするならば、私たちはもっと根本的に正しいことをしていなければいけないのです。

それを知るために、私たちはイエスがこの箇所引用した元のみことばを見なければいけません。旧約聖書、申命記6：4－9です。「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。：5心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。：6私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。：7これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。：8これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。：9これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。」

ここから私たちは幾つかの事柄を見ることができます。どのようにして家族を神を愛するように導くことができるのでしょうか？夫、父はどうすれば家族を神を愛する者に導いて行くことができるのでしょうか？二つのことを見ます。

a) 模範を示すことによって導く

男性は模範を示すことによって家族を導きます。最初に見ていただきたいのはこのことばです。6節「私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。」、そして、7節「これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。」。もし、主を愛することが皆さんの心に確かに刻まれていないなら、皆さんの子どもたち、皆さんの家族は皆さんの後を付いて来ません。一家の長である男性は、家族の中で神について最も燃えていなければいけないのです。神の事柄に最も熱心でなければいけないのです。神の事柄をしたくてしょうがないということを示していなければいけないのです。なぜなら、心の中に神のみことばが刻まれているから、神の愛が確かに刻まれているからです。内側に刻み込まれているなら、外側に出て来るはずですが、もし、確かに、神のみことばが刻まれていて、神のみことを愛し、神を愛することを心から願って生きているとするならば、それは皆さんの生涯に確かに形になって現われるではないですか？それは皆さんのみことばに対する姿勢、みことばに対する従順によって現わされます。皆さんの家族は皆さんが神を心から愛していることを見ないといけません。皆さんが家族の前にあって、神を愛して歩んでいるという姿を家族が見つめて、彼らはその模範を見て生きて行くのです。主を愛して生きることは他の何よりも価値があることだということを、皆さんの生涯を通して納得しなければいけないのです。はっきりと明確に具体的な形で、それがいかにすばらしいことなのかを示さなければいけないのです。

皆さんが神と違う方向に行っているのなら、子どもたちに妻たちにどのようにして「神さまを愛した方がいいよ」と言えますか？どのような説得力がありますか？皆さんが神の愛を実践しているときに、皆さんはパウロと同じことを言います。「私について来なさい。私を見習いなさい。」と、皆さんはどのように家族に対して言わなければいけないのです。「確かに足りません。でも、私は一生懸命そこに向かって進んでいるのです。」と、パウロも同じです。パウロも完璧だったわけではありません。でも、私たちは言います。「私はそんな模範にならないから、私でなく他の人を見習ってください。いいえ、私はどちらかというと反面教師なのです。」と。世の中ではそれは通るかも知れませんが、皆さんが自分自身に何とか心を慰める言い訳として「反面教師」ということばを使うかもしれませんが、皆さんが反面教師なら神は天で嘆いています。知っていますか？神は「あなたが模範となりなさい」と言われるのです。反対の模範ではなくて、間違いなく正しく具体的な形で主を愛することができる模範として歩んで行きなさいと言うのです。あなたは模範となっていますか？夫の皆さん、父親の皆さん、皆さんの神への愛が模範なのです。

b) 熱心に教えることによって導く

テキストを見るとここで見る姿は、男性があらゆる人生の瞬間を通して、家族を教える機会を見計らっている姿です。7節に「良く教え込みなさい」とあります。「あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。」と、ありとあらゆる時にそれを行なっているのです。確かに、家族の中で「デボーションの時間を持ちましょう」ということは素晴らしいことです。それが悪いと言っているのではないし、しない方が良いと言っているのでもありません。でも、それをしたから「十分です」ではないのです。もし、皆さんが24時間、週7日、一年365日、じつくりと家族の状態を見ながら、あらゆる出来事の中で「ここが今この真理を妻や子どもたちに伝える最高の場だ」というその機会を一生懸命見つけ見つめながら、子どもたち、妻たちを教えて行くことが皆さんに求められているのです。

幾つかの条件があります。どうすれば熱心に良く教え込むことができるのでしょうか？

- (1) **機会を逃さない**：男性の多くは見逃しているのです。見ていないから、いないからです。いろいろな時に機会を見つけることです。そのためには皆さんはその機会がどこにあるのか良く探っていないかもしれません。
- (2) **教えるために時間を割く**：また、皆さんは教えるために時間を割くことを願っていないかもしれません。真理を家族に伝えることです。確かに、24時間、週7日、年365日、子どもたちや家族の周りにずっと居続けることはできません。だから、皆さんには助け手がいるのです。夫婦で会話をしながら、家族に起こっている様々な出来事に敏感に気付いて、教えるべきタイミングをしっかりと探るのです。教えようと思ってもすべてのことを教えられる訳ではありません。それゆえに、夫が一番学んでいなければいけないのです。皆さん、家族の中のだれよりも学んでいますか？継続的に学び続けなければいけないのです。確かに「私はしゃべりベタ」と言われるかも知れません。多くの男性は話すことが苦手なのです。その通りです。でも、だからといってそれは言い訳にならないのです。始めなければいけないのです。伝えなければいけないのです。それが皆さんに与えられている役割だからです。
- (3) **家族が信仰の家となるように導く**：8-9節に「これをするしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。：9 これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。」とあります。これは具体的にこのように加工しなさいということではありません。心に刻むことも字義的に捉えなくてははいけません。考えることも行なうこともすべてのことがみことばに沿ったものでなくてはならないと言うのです。そのためには良く理解して、その適用をよく考えていなければいけないし、それを実践している人でないといけません。そのように為して行くとき、その家に入ると「この家は他とは違う」ということが分かるのです。父親がそのことを実践し、家族がその模範に沿ってしっかりと歩んで行き、あらゆるところで父親、夫が家族に教え込んでいるから「信仰の家」と呼ばれます。ヨシュアは言いました。「私と私の家とは、主に仕える。」(ヨシュア記24：15)と。

皆さんはこのように家族を導いておられますか？皆さんは主のことをこのように伝えていますか？もし、皆さんが主を愛するように家族を導いていないなら、そこには大きな問題があります。家族を愛するように家族の一人ひとりが他の人たちを愛するように導かなければいけません。

2) 隣人を愛するように自分の家族を導く

マタイ22：39『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」。他の人を愛することには二つの部分があります。一つは教会で、もう一つは救われていない人たちです。皆さんにとって教会の人を愛することは大切な事柄ですか？皆さんは子どもたちが教会に来ることを重要視していますか？皆さんは教会で、子どもたちが自分たちに与えられている才能や賜物を用いて他の人たちに仕えるように促し励ましていますか？それとも他の用事のほうが大事だから教会はいいですよと言っていないですか？あらゆることを横において教会が大事だと子どもたちに教えていますか？

確かに、時によっては他のことを優先しなければいけないことがあるかも知れませんが、皆さんは交わりが断たれないように子どもたちを促していますか？例え、礼拝に来ることができなかったとしても、様々な機会にクリスチャン同士の交わりを持つことができるように、その場を備えてあげていますか？子どもたちが伝道できるように導いていますか？子どもたちに救われていない人たちを愛する思いを与えていますか？子どもたちに伝道する方法を伝えていますか？皆さんの子どもはどうすれば未信の友人に自分の信仰を伝えることができるかを知っていますか？皆さんは隣人を愛するように導いていますか？もっと言いたいことがあります、皆さんはお分かりになってくださると思います。正直に告白しなければなりません。このように話すことは辛いです。なぜなら、私が多分一番できていないと思うか

らです。

創世記3章で、私たちの人間関係が明らかに崩壊しました。妻は夫に従うことを喜ばず、夫は妻を導くことを放棄しました。神は私たちを救うことによって、その関係を修復するための方法を与えてくださったのです。私たちはリーダーとして神の基準に到底達しない愚かな弱い者です。でも皆さん、私たちはそのような男性になって行かなければいけないのです。未婚の男性の皆さん、皆さんは教会の中で、様々な働きの中でリーダーシップを発揮しなければいけません。未婚の女性の皆さん、皆さんはそのように導いて行く男性に引かれて行かなければいけません。

妻の皆さん、夫がクリスチャンであるなら、皆さんの夫がこのようなリーダーシップを発揮することができるように助けて行かなければいけません。夫が救われていないなら、皆さんが妻として与えられている役割を十分に発揮しながら、このような幸いが夫を通して与えられることを心から願うゆえに、心から主の前にへりくだり益々熱心に祈り続けなければいけません。

男性の皆さん、自分がしていることが十分だなどと言い訳をしてはいけません。私たちは永遠の門の前で主の前に立つのです。そこで問われることは「あなたは夫としての役割を果たしましたか？」です。あなたは主に何と答えますか？

願わくは、私たちみな喜んで主に仕え、すばらしいリーダーとして生きて行くことができるようになること、神はそれを望んでおられます。そして、神は皆さんを助けてくださいます。今までこのようにして来なかったとしても、神は皆さんを変えようとしてくださいます。その主に期待して、そのような男性になりながら、私たちの愛する女性たちに大きな幸いをもたらすことができる者になら変わって行きましょう。